

新宮城跡

新宮城は、会津領有を命じられた佐原十郎義連の孫で新宮六郎左衛門尉時連が建暦二年（一一二二）に築いたといわれている。

新宮城は、本丸、二の丸、三の丸があり、そのほかに内堀・外堀導水堀等があったが、これらは現在水田や畑となっている。本丸は一段と高く東西七〇間（約二二六メートル）、南北八二間（二四八メートル）の規模をもっており、当時の姿をとどめている。



新宮氏は、代々この城に住み、この地方を支配していたが、本家の芦名氏とたびたび争い、六代新宮次郎盛俊のとき、応永二十七年（一四二〇）落城した。

所在地

慶徳町新宮

宇内家のダルマ自転車

市内一丁目の宇内弥惣次氏宅に、県内では唯一のダルマ自転車が保存されている。

ダルマ自転車は、木製で、フレームは鉄製、ハブ、スポーク、リムが木製で、タイヤは鉄のタグでできている。自転車は、全体の長さが一三五センチで、前輪の直径八〇センチ、後輪は三五センチ、ホイールベースは八〇センチである。また高さは一一〇センチある。

小型だが、フレームはダルマ自転車特有のステップも付いており、明治十五年前後に作られたものと思われる。

このダルマ自転車は、宇内家二代目の弥惣次氏（大正十五年没）が買い入れたものと伝えられている。

所在地 新仲町

